

釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

おん ね ない

# 月刊 温根内 通信

2022年9月号 No.312

9月15日(木)発行



## 視点を改めて眺めてみると

秋の風が吹き抜ける釧路湿原。丘の木々の葉も徐々に色づき始めています。

枝先に果穂が垂れ下がるサワシバの木を、下から眺めてみました。ヤマブドウの蔓も覆いかぶさって、まるで小人になった自分が誰かの隠れ家に迷い込んだような、不思議な感覚でした。普段見慣れた風景や植物も、違った角度から見つめると、色んなことがわかることがあります。

☆☆☆ 温根内木道周辺で見られた自然 (8/15 ~ 9/14) ☆☆☆



【コガネギク】  
 キク科 黄金菊  
 ミズゴケ湿原に彩りを添える最後の花です。花のつき方にはかなり個体差があります。



【ウメバチソウ】  
 ニシキギ科 梅鉢草  
 家紋の「梅鉢紋」と形が似ていることが和名の由来。今年も湿原に可憐な花を咲かせてくれました。



【ヤナギタウコギ】  
 キク科 柳田五加木  
 小さなひまわりのような花が湿原の一角に咲きました。職員にとっても珍しい、絶滅危惧種です。



【ミツバペンケイソウ】  
 ペンケイソウ科 三葉弁慶草  
 こんもりとした花序はカリフラワーのようです。ヤチボウズやハンノキの株の上に見られます。



【ジャノメチョウ】  
 タテハチョウ科  
 今年はこのチョウの姿をよく見ました。翅の黒い斑点の中に、さらに青白い点が浮かびます。

もうすぐ見られるかも!



2019年10月9日撮影  
 【キトンボ】シーズン最終版を告げるトンボです。

○表紙の写真 上：サウシバの果穂 下：ヤマブドウの実

## ☆☆☆ 温根内木道周辺で見られた野鳥 (8/15～9/14) ☆☆☆

釧路湿原では、野鳥の声はすっかり静かになり、むしろこの静けさが秋の訪れを感じさせてくれています。ただし、これからは移動中の野鳥や、冬羽に変わる夏鳥など、今まで見られなかった野鳥の姿が見られる可能性があります。



【イカル】 夏鳥  
アトリ科 斑鳩  
黄色く太い嘴が木の間からチャリ。「キャ、キャ…」という地鳴きも聞こえてきました。



【ノビタキ】 夏鳥  
ヒタキ科 野鶇  
冬羽に変わりつつありました。賑やかだった本種も、徐々にその姿が見られなくなっています。



【ノスリ】 留鳥  
タカ科 鷹  
甲高い声を響かせてを優雅に舞っていました。ビジターセンターの上空で見られることもあります。

### ○温根内木道周辺で観察された花と鳥 (8/15～9/14)

花 (和名は五十音順 *外来種)	34	カラハナソウ	68	ハンゴンソウ	3	タンチョウ	
1	アキノウナギツカミ	35	カラフトノダイオウ	69	ヒメジョオン*	4	ハリオアマツバメ
2	アメリカセンダングサ*	36	キオン	70	ヒメナミキ	5	トビ
3	イケマ	37	キツネノボタン	71	ヒメミクリ	6	ハイタカ
4	イチゲフウロ	38	キツリフネ	72	ヒメムカシヨモギ*	7	ノスリ
5	イヌタデ	39	キンミズヒキ	73	ヒヨドリバナ	8	カワセミ
6	イヌトウバナ	40	クサノオウ	74	ヒロハヒルガオ	9	コゲラ
7	イヌホオズキ	41	クサフジ	75	ヘラバヒメジョオン*	10	オオアカゲラ
8	イワアカバナ	42	クサレダマ	76	ホザキシモツケ	11	アカゲラ
9	ウシハコベ	43	クルマバナ	77	ホソバアカバナ	12	クマゲラ
10	ウツボグサ	44	コウゾリナ	78	ホソバイラクサ	13	チゴハヤブサ
11	ウド	45	コガネギク	79	ホソバノヨツバムグラ	14	ハシボソガラス
12	ウメバチソウ	46	ゴキツル	80	ミス	15	ハシブトガラス
13	エソイヌゴマ	47	コハコベ	81	ミソガワソウ	16	ハシブトガラ
14	エソイラクサ	48	コメツブウマゴヤシ*	82	ミソホオズキ	17	ヒガラ
15	エソウコギ	49	サラシナショウマ	83	ミチヤナギ	18	シジュウカラ
16	エソオオヤマハコベ	50	サウギキョウ	84	ミツバフウロ	19	ヒヨドリ
17	エソゴマナ	51	シオガマギク	85	ミツバベンケイソウ	20	ウグイス
18	エソシロネ	52	シロツメクサ*	86	ミツモトソウ	21	エナガ
19	エソトリカブト	53	ススキ	87	ミミコウモリ	22	センダイムシクイ
20	エソナミキ	54	セイヨウタンポポ*	88	ミミナグサ	23	コヨシキリ
21	エソノキツネアザミ	55	セリ	89	ムラサキツメクサ*	24	ゴジュウカラ
22	エソノレンリソウ	56	タカアザミ	90	モウセンゴケ	25	キバシリ
23	エソヤマアザミ	57	タニソバ	91	ヤナギタウコギ	26	ノビタキ
24	エソリンドウ	58	チドリケマン	92	ヤナギタンポポ	27	コサメビタキ
25	オオアワガエリ*	59	ツメクサ	93	ヤブジラミ	28	ニューナイスズメ
26	オオヌマハリイ	60	ツリフネソウ	94	ヤブマメ	29	キセキレイ
27	オオバコ	61	トウヌマゼリ	95	ヤマハギ	30	ピンズイ
28	オオバセンキュウ	62	ドクゼリ	96	ヤマハハコ	31	カワラヒワ
29	オオバナヤエムグラ	63	トモエソウ	97	ヨシ	32	ベニマシコ
30	オオヨモギ	64	ナガボノシロワレモコウ	98	ヨブスマソウ	33	シメ
31	オトギリソウ	65	ネジバナ	鳥 (和名は日本鳥類目録第7版の順)	34	イカル	
32	カタバミ	66	ハッカ	1	アオバト	35	アオジ
33	ガマ	67	ハナタデ	2	アオサギ	36	オオジュリン

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

☆☆☆☆ 自然ふれあい行事が開催されました ☆☆☆☆

○「夏休み! ザリガニウォッチング ～ウチダザリガニ編～」 8月21日

参加者：10名 講師：藤原伸也（温根内VC指導員）

温根内周辺に生息するウチダザリガニを実際に観察して外来生物の脅威を学ぶ、ザリガニウォッチングを行いました。参加者は外来生物についてのレクチャーを受けた後、ウチダザリガニの棲む場所へと向かいました。まさに釣り日和となったこの日、餌のスルメに近寄ってくるウチダザリガニが確認できるほど川の底がよく見え、開始から数分で最初の釣果の歓声が上がりました。その後も子どもから大人まで夢中になって釣り上げ、1時間ほどで23尾を釣ることができました。そして、釣ったザリガニはじっくり観察し、「絶対に」生きたまま別の場所に放さないことを皆に誓ってもらいました。ウチダザリガニは非常に攻撃性が強く、指を挟まれる参加者もいましたが、外来生物の脅威とともに命の大切さも学んだ一日となりました。



○「アイヌの自然観 ～植物編～」 9月4日 参加者：12名 講師：奥田幸子（釧路アイヌ語の会）

釧路アイヌ語の会の奥田氏を講師に招き、アイヌ民族が利用した植物を観察しながら、彼らの知恵を学ぶ会を開催しました。館内を出て間もなく、目立ち始めたマムシグサ（ラウラウ）の実を観察しました。本種は有毒植物として知られているものの、アイヌの人々は赤く熟したこの実を下痢止めに使ったり、



秋に塊茎を掘り出してうまく有毒部分を取り除いて食べたりしたことを解説していただきました。右岸堤防沿いの水辺ではヒシ（ペカンベ）が見られ、掘り上げてみると、根元には特徴的な形の実をいくつかつけていました。アイヌの人々は冬でも塘路湖に穴を開けて底に沈んだこの実を採取し、重要な食糧源としていた話を当時の絵を見せてもらいながら説明いただき、参加者は驚いていました。その他にも、様々な植物を利用しているアイヌの深い知恵に、参加者の皆さんは感嘆し、興味は尽きない様子でした。

○ 自然ふれあい行事 ⇒お申し込み☎0154-65-2323

♪ザリガニウォッチング2 ～ニホンザリガニ編～

〔日時〕10月9日（日）10：00～12：00

〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔場所〕温根内ビジターセンター

湿原に生息している絶滅危惧種ニホンザリガニ。

生息環境と近年の状況を学び、実際に探しに出かけましょう。



♪秋の紅葉を見に行こう

〔日時〕10月16日（日）10：00～12：00 〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔場所〕温根内ビジターセンター

紅葉の季節。鶴居軌道跡の樹木を中心に色づいた木々や実を見つけに行きましょう。

～木道の工事が始まります～

今年も古くなった木道を改修工事いたします。**10月17日～翌年3月31日（予定）の期間**、下記ルートは通行できませんのでご注意ください。



月刊 温根内通信 No.312

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel：0154-65-2323 Fax：0154-65-2185

E-mail：ovc@kushiro-shitsugen-np.jp

ホームページ：http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/

Facebook：温根内ビジターセンター フェイスブック

開館時間：9：00～17：00（11月～3月は16：00まで）

休館日：毎週火曜日（12/29～1/3は休館）入館無料